

JICA 関係者限定資料

フィジー

任国情報

1999年

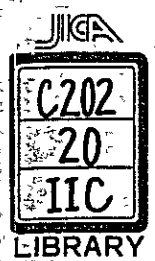
JICA LIBRARY



J 1154280 (0)

国際協力事業団

国際協力総合研修所



は し が き

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家などのJICA関係者に、赴任国での生活上必要な情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様から多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も本書の内容を一層充実させ、常に新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

なお、本書に記載された内容は、当該国に派遣中の専門家などJICA関係者の皆様の執筆を中心にまとめたものであり、国際協力事業団の公式見解ではないことを付記いたします。

平成11年12月

国際協力事業団
国際協力総合研修所長

* スペイン語の表記は、アクセント記号などを省略いたしましたのでご了承ください。



1154280 (0)

目 次

I 概 況	i
II 生活事情	1
1. 食生活	1
2. 衣 料	6
3. 住 宅	8
4. 医 療	11
5. 教 育	16
6. 家庭の使用人	19
7. 交通事情	20
8. 通 信	23
9. マスコミ	25
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	27
11. その他のサービス	31
12. 観 光	32
13. 治安、緊急時の心得	34
14. 出入国手続きおよび帰国手続き	36
15. 私財の輸送、引き取り、購入	38
16. 社 交	41
17. 任国官公庁	42
18. 在外日本関係機関など	44
19. 地方都市	45

I 概況

表-1：フィジー概況

正式国名	(和文) フィジー諸島共和国 (英文) Republic of Fiji Islands*注1
独立年月日	1970年10月10日*注2
旧宗主国	英国
政 体	共和制*注3
元 首	ラトゥ・サー・カミセセ・マラ (Ratu Sir Kamisese Mara) 大統領 (1999年1月より2期目)*注4
位置・面積	南緯15～22度 東経174～西経177度 18.27千km ² *注5
首 都	スヴァ*注6
総人口	0.81百万人
民 族	フィジー系51%、インド系44%*注4
公用語	英語*注7
宗 教	キリスト教、ヒンズー教、イスラム教*注4
暦	<日本との時差> +3時間*注7、*注8 <祝祭日> (1999年) 1月 1日 新年 3月 12日 National Youth Day 4月 2～5日 イースター 5月 31日 Ratu Sir Lala Sukuna Day 6月 12日 女王誕生日 6月 28日 予言者聖誕祭 7月 26日 憲法記念日 10月 11日 独立記念日 11月 8日 Diwali 12月 25～27日 クリスマス

出所 注1：『国際協力事業団法令・規程集』

注2：『世界各国要覧 9訂版』1999 東京書籍

注3：『国概況』1998年12月 外務省

注4：『世界年鑑』1999 共同通信社

注5：World Development Indicators (WB)-1998 出典年：1998/統計年：1995

注6：『世界の国一覧表』1998 外務省

注7：『世界年鑑』1998 共同通信社

注8：*国際航空運送協会 (IATA) 調べ

1. 国土の概要

フィジーは南太平洋の中央部、南緯15～22度、東経174～西経177度間にあり、ヴィティ・レヴ、ヴァヌア・レヴの2つの大きな火山島と、その南東に散らばる330以上の火山島や小環礁からなっている。領海を含めた領域は70万km²、陸地はその約3%で日本の四国とほぼ同じであり、ヴィティ・レヴ島とヴァヌア・レヴ島で全土の90%以上を占めている。両島とも中央部に山岳地帯を擁し、海岸の溺れ谷に続いて峡谷がよく発達し、平野が少ない。

(参考文献)

『世界各国要覧 8訂版』1995 東京書籍

2. 気候

フィジーの島々は貿易風帯にあり、夏(11～4月)は北か北西の湿った風が吹いて雨期となり、冬(5～10月)は南東風が吹き抜け乾期となる。ヴィティ・レヴ島では中央部に南北に山脈が走っており、この山岳が南東貿易風をさえぎるため、首都スヴァのある南東部地域は多雨であるのに対し、西側は水不足で悩まされるほどの乾燥地である。サイクロンとよばれる熱帯性低気圧は12～3月にかけて多く発生し、2～3年に1回ぐらいの割合で島を直撃する。

表-2: 降水量/平均気温

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
気温(°C)	26.5	26.6	26.3	25.6	24.5	23.7	22.8	23	23.7	24.6	25.5	26.1	24.91
降水量(mm)	299.2	301.6	305.9	163.1	77.6	61.2	46.3	62.2	86.4	100	136.5	186.5	152.21

(参考文献)

『世界各国要覧 7訂版』1993 東京書籍

『フィジーの経済社会の現状』1993 国際協力推進協会

3. 人口

- ・総人口：81,465,000人
- ・人口密度：43.95人/km²
- ・主要都市人口：スヴァ7万人

(参考文献)

World Development Indicators (WB)-1998 出典年：1998/統計年：1996
The Europe World Year Book 1998 Europe Publications

4. 略史

表-3：フィジー略年表

年	出来事
1643年	タスマン、フィジー諸島の北部発見
1874年	英国の植民地となる
1970年 10月	10日、英国より独立（立憲君主制）。国名：フィジー
1987年 10月	英連邦脱退。10月7日に共和制へ移行。国名：フィジー共和国
1997年 9月	30日、英連邦に再加盟
1998年 7月	27日、修正憲法発効。国名：フィジー諸島共和国

出所 「各国・地域事情と日本の関係」外務省ホームページ

5. 民族

フィジー系51.1%、インド系43.6%、その他5.3%で構成されている。経済を事実上支配するインド系住民と、土地の83%を保有するフィジー系住民との対立が見られる。

(参考文献)

『世界年鑑』1999 共同通信社

6. 言語

公用語は英語であるが、フィジー系住民の間ではフィジー語（バウアン語）、インド系の住民の間ではヒンズー語が話されている。

（参考文献）

Country Profile: Pacific Islands 1994-95 1994 EIU

7. 宗教

キリスト教52.9%、ヒンズー教38.2%、イスラム教7.8%などである。

（参考文献）

『世界年鑑』1999 共同通信社

8. 文化

フィジー社会は家父長制であり、土地使用、世帯の住居、漁場の選定、家族の活動、結婚、出産などすべてのライフサイクルにわたる意思決定は男性によってなされる。年配の女性やコミュニティの中で高い位置にある女性は、家族やコミュニティに関する重要な意思決定への意見を求められる。

（参考文献）

『国別WID情報整備調査 フィジー国』1998年11月 国際協力事業団

9. マス・メディア

(1) 新聞

日刊紙としては『Fiji Daily Post』（英語）、『The Fiji Times』（英語、3万4000部）がある。

（参考文献）

The Europe World Yearbook 1999 1999 Europe Publications

(2) 放送

テレビではFiji TVが3系統の放送を行っている。

ラジオはFBC (Fiji Broadcasting Commission) が中波3系統、FM5系統で言語別に放送しているほか、商業FM局がある。

(参考文献)

『データブック1999 世界の放送』1999 NHK出版

10. わが国との関係

(1) 日本との外交関係概要

日本は1970年の独立と同時に同国を承認し、以来友好関係にある。漁業や観光の分野で日本企業が進出し、スヴァの店頭には日本製品が多く並んでいる。

1996年度までの無償資金協力は107億2100万円。1997年度には初の円借款を供与した。1996年度までの直接投資は132件284億円。在留邦人は1997年10月時点で247人。

(参考文献)

『世界年鑑』1999 共同通信社

『世界各国要覧 9訂版』1999 東京書籍

(2) 要人往訪

1980年	長谷川四郎衆議院議員 (独立10周年記念式典特派大使)
1985年	中曾根総理、安倍外相
1987年	倉成外相

(3) 要人来訪

1980年	5月	マラ首相 (公賓)
1982年	9月	ギオニンバラヴィ外務・観光相 (外務省賓客)
1985年		マラ首相 (科学万博賓客)
1986年		シキヴォウ外相 (外務省賓客)
1988年		マラ首相 カミカミザ蔵相 (高級実務者招へい)
1989年		ヴニンボンボ貿易・商業相

1989年	ピカリング観光・航空・エネルギー相 ガニラウ大統領夫妻（大喪の礼）
1990年	ボキニ森林相（花博賓客） ガニラウ大統領（即位の礼）
1991年	ゴネレヴ第二次産業・協同組合相（高級実務者招へい）
1992年	マニュエリ蔵相
1993年	ヴェシクラ副首相兼フィジー系人問題・地域開発相
1994年	ナゾラ国家計画・地域開発・他民族問題担当相、 タイ保健・福祉相、ディムリ情報・放送・通信相、 マニュエリ自治・移民・青少年・雇用・スポーツ相、 パウエル観光・民間航空相、ヴニンボンボ大蔵・経済開発相 ランブカ首相夫妻（公式実務訪問賓客） ボキニ農業・林業・漁業相、ア・コイ商業・産業・貿易・公営企画相
1995年	カウキモーゼ住宅・都市開発・環境相（高級実務者招へい） ボレ外務・観光・民間航空相（非公式）
1996年	ボレ外務・観光・民間航空相（世銀観光会議出席）
1997年	ランブカ首相、ボレ国家計画相（SPF首脳会議）

（参考資料）

『各国・地域事情と日本の関係』外務省ホームページ

表-4：経済指標 [フィジー]

GDP (百万フィジードル) (1997年)	*注1	3102.4
1人当たりGNP (USドル)	*注2	N.A.
実質GDP成長率 (%) (1996年)	*注3	3.6
消費者物価上昇率 (%) (1996年)	*注3	2.2
失業率 (%) (1996年)	*注3	6.0
貿易収支 (百万ドル)		-182.4
輸出額 (fob)		655.2
輸入額 (fob) (1996年)	*注1	837.7
主要輸出入相手国 (1995年)	*注3	輸出：オーストラリア (26.0%) 輸入：オーストラリア (38.8%)
経常収支 (百万USドル) (1996年)	*注1	10.2
対外債務残高 (百万USドル) (1997年)	*注4	213.4
対外債務返済比率 (%) (1997年)	*注4	3.1
外貨準備高 (百万USドル) (1998年)	*注1	385.42
為替レート (1999年12月31日)	*注1	1USドル=1.9861フィジードル
会計年度		1月1日～12月31日

出所 注1：International Financial Statistics Yearbook 1999 IMF

注2：World Development Indicators (WB)-1999 出典年：1999/統計年：1997

注3：『各国・地域事情と日本の関係』外務省ホームページ

注4：Global Development Finance Country tables 1999 World Bank

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

特殊な物や季節の物を除き、日常の食生活に必要な物は、すべて公設市場やスーパーマーケット、個人商店などで入手可能である。食料が不足して買い置きしなければならないような事態はほとんどない。日本食品も多少ある。輸入食品も東洋、西洋の物など質・量ともに多種多様である。

(2) 主な食料の出回り状況

<米>

長粒米が主流である。短粒米（日本米と同様）は、1997年8月からオーストラリアからの輸入米を国内で精米して販売開始したため、常時容易に入手できるようになった（FNFサンホワイトおよそ12フィジードル/10kg）。中華食材店ではオーストラリアで精米しているサンホワイトを輸入している（およそ17フィジードル/10kg）。

<パン>

パン店は多い。6:00から18:00まで営業しており、焼きたてを常時入手できる。また、大手スーパーマーケットでも入手可能である。クロワッサン、フランスパン、パイ、ピザなどを置いている店もある。

<肉類>

牛肉、豚肉、鶏肉、羊肉（ラム）、山羊肉があり、部位別に販売されている。ひき肉、レバー、ハム、ソーセージ、ベーコン、鶏卵なども揃っている。

<野菜>

国産をはじめ、ニュージーランド、オーストラリアからの輸入品もあり、種類は豊富である。公設市場では中国系の店で、白菜、チンゲンサイ、ネギ、モヤシなども入手可能である。ゴボウなど日本独特の野菜や生のキノコ類はないが、三つ葉、春菊、ニラなどは自宅で栽培できる。

<果物>

バナナ、パイナップル、リンゴ、パパイヤ、オレンジは常時入手可能である。季節によりスイカ、マンゴー、輸入品のイチゴ、柿、ナシ、ミカンなどが出回る。

<魚介類>

天候にもよるが、スヴァの魚市場では近在の漁民が水揚げしたリーフフィッシュ各

種、カツオ、マグロ、タチウオ、サヨリ、メアジなどを入手できる。ときにはカニ、伊勢エビ、アナジャコ、タコ、ウニ、二枚貝、巻貝、海草も見られる。スーパーでも鮮魚、エビ、イカなどを扱っているほか、魚専門店では3枚おろしにしてもらうことも可能である。また、さばくのは一苦勞であるが、輸出漁業会社から刺し身用のマグロ（キハダ、メバチ）も購入可能である。

<調味料>

日本製を含め、酢、ミリン、醤油、味噌などが入手可能である。洋風、中華風の調味料も多種揃っている。

<食用油>

原料は外国から輸入して国内で精製している。品質はよい。キャノーラ油、大豆油、コーン油、マーガリンなど各種揃う。

<乳製品>

バター、チーズ、ヨーグルトなど、国産、ニュージーランド産が各種ある。

<酒類>

ビール（フィジー産3銘柄）、ウイスキー、ワイン（オーストラリア産、ニュージーランド産）など種類も多く値段も安い。日本酒はあるが高価である。

<飲料水>

水質は軟水で良質であり、水道水をそのまま飲むことができるが、長雨や洪水の際には濁ることがある。フィジー産、ニュージーランド産のミネラルウォーターが市販されている（2.7フィジードル/1.5l）ほか、清涼飲料水も各種ある。

<その他>

豆腐はパック詰め品のほか、中華食材店でも販売している。

(3) 食料の入手

スヴァの公設市場では新鮮な野菜、果物、魚介類が入手できる。また、住宅地の近くにも小規模な野菜市場やスーパーマーケットが多数あるので、日常の買物には不自由しない。

日本食材を扱う店では、醤油、ミリン、酢、味噌、だしの素、つゆの素、トンカツソース、マヨネーズ、カレールー、冷麦、そうめん、中華めん、コンニャク、七味唐ガラシ、ワサビ、ワカメ、漬物パックなどを購入できる。価格は日本での2、3倍である。ごま油、大豆、小豆など中華との共通食材は常時ある。

主な店は次のとおりである。

<スーパー>

Morris Hedstrom (MH)

所在地：Main Store: Thomson Street

備考：1998年火災で全焼、休業中

所在地：Superfresh: Mead Road

備考：日曜は半日営業

Joes farm

所在地：Flagstaff

備考：日本食材を含むアジア食材

所在地：Ragg Avenue

Cost-U-Less

所在地：Laucala Bay Road U.S.P.前

備考：1998年11月開店、輸入冷凍食材その他多数

<精肉店>

Wahleys Butchery

所在地：Flagstaff, Cumming Street

備考：直営農場からの牛肉、豚肉、鶏卵が新鮮

<鮮魚店>

Cakaudrove Fish Co.

所在地：11 Bureta Street Samabula

備考：3枚おろし可、「Sashimi」としてマグロの冊あり

Fiji Fish

所在地：Queens Road Lami

備考：マグロ輸出会社

<日本食材がある店>

Fong Yuen (方源)

所在地：43 Toorak Road

備考：味噌、カレールー、小豆など

Yon Tong (遠東)

所在地：121 Marks St.

備考：味噌、カレールー、乾めんなど

New Oriental Market Shop 17

所在地：Downtown Boulevard

備考：味噌、乾めん、マヨネーズ、コンニャクなど

H. Tui Fong & Sons

所在地：公設市場前

備考：豆腐、オーストラリア直輸入米、野菜

1-2 食器、調理器具など

(1) 食器、調理器具などの入手

冷蔵庫、トースター、ミキサー、電子レンジなどの家庭用電化製品は各種入手できる。ただし、炊飯器は保温機能のない旧式の物しかない。通常、借家には冷蔵庫、洗濯機、オープン・グリル付きガス台（または電気クッカー）が備え付けられている。

西洋包丁、鍋、フライパン、まな板、おたま、フライ返し、中華鍋、蒸し器などの調理器具、中華用食器、コップ、フォーク、スプーンなどの洋食器などはスーパーマーケットや前述の食料品店で入手できる。

(2) 日本から持参したほうがよい食器、調理器具など

和包丁（刺し身、出刃包丁）、すりこぎ、すり鉢、茶碗、小鉢、湯のみ、箸、おろし金、焼き網などは持参したほうがよい。

日本仕様の電化製品を持参する場合は、あわせて変圧器を持参する必要がある。当国は240v、50サイクルである。ソケットは当地で入手できる。

1-3 外食

(1) 飲食店

市内にはカレーやインド風スナック、ピザ、中華料理、フライドチキン、サンドイッチ、ハンバーガー、焼き肉、マレーシア料理などの店があり、ほとんどの店で持ち帰りもできる。チップの習慣はない。

邦人がよく利用するレストランは次のとおりである。

<日本料理>

大黒

所在地：Victoria Parade

浜町

所在地：ナンディ

大黒

所在地：ナンディ

<中華料理>

四川樓酒家

所在地：Thomson Street

ランタン・パレス

所在地：Pratt Street

China Town

所在地：Cumming Street

Great Wok

所在地：Flagstaff

<韓国料理>

Seoul House

所在地：Southern Cross Hotel内

<マレーシア料理>

Kampung Ku

所在地：Berjaya Inn

<西洋料理>

Aberdeen Grill

所在地：16 Bau Street

Cardos Chargrill

所在地：Regal Game plaza裏

Chefs

所在地：Pier Street

<インド料理>

Ashiyana

所在地：Old Town Hall Bldg. Victoria Parade

Curry House

所在地：Cumming Street

Hare krishna

所在地：Pratt Street

<海鮮料理>

Tiko's (船上レストラン)

<ファーストフード>

McDonald's

所在地：Victoria Paradeカントラス航空隣

(2) その他の飲食店

該当情報なし。

2. 衣料

2-1 衣料

(1) 一般事情

蒸し暑い季節が12月頃から3月頃まで続く。男性は半袖シャツ（ノーネクタイ）とズボン、女性はブラウスにスカート、またはワンピースという服装が一般的である。

7～9月の夜間、早朝は14℃ぐらいまで気温が下がることがある。薄手のカーディガン、トレーナーなども持参したほうがよい。ただし、雨が続きとかびやすいので高価な物は避けたほうがよい。

邦人が満足できるデザインや品質は望めないが、オーストラリア製や国産の衣料が豊富である。あまりこだわらなければ安価で購入できる。

(2) 日本から持参したほうがよい衣料

綿製品を主体に、一通り持参したほうがよい。特に下着類は各自多めに持参すること。また、女性の靴、サンダル、子供の運動靴なども適当なサイズや品質が少ないため持参したほうがよい。

そのほか、男性は夏用背広かジャケットを1着、夏用ズボン、半袖ワイシャツ数枚、ネクタイ1本、靴下が必要である。女性はサマージャケット1着、ワンピース、ブラウス、スカート、帽子（日除け）など、児童、乳幼児には夏用ふだん着、春、秋用トレーナーなどを持参するとよい。

(3) 任国で調達したほうがよい衣料

Tシャツ、リゾートドレス、ショートパンツ、ブラシャツ（アロハシャツ）などは南国らしいデザインが揃っている。

各学校には制服があり、指定の物を当地で用意することになる。

(4) その他の留意点

赴任時期により、毛布、タオルケットなどは販売されていないこともある。涼しい時期には中国製の綿や化繊の毛布が売り出されるが、日本のような肌掛けや大判のタ

オルケットはない。必要に応じて持参すること。

2-2 礼装

(1) パーティー

Bulaと指定されるのが一般的である。男性はブラシャツ、女性は長めのワンピースを着用する。

(2) 式典

招待状の指定にしたがう。スーツまたは長袖のワイシャツにネクタイが一般的である。

(3) 冠婚葬祭

家柄や式場により異なるが、スーツまたは白いワイシャツを着用する。

(4) その他の留意点

男性は黒、グレー、紺系統の夏物スーツを1着持参すれば十分である。女性はロングドレスがあればパーティーなどで役立つ（当地購入可）。和服は特に必要ないが、浴衣は学校の行事などで着る機会がある。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗濯

クリーニング店が2軒あり、ドライクリーニングも可能である。

アイロン、洗濯機などは当地で購入可能である。電気洗濯機は住宅に備え付けられている場合が多い。

家政婦／夫を雇用した場合、家庭での洗濯、アイロンがけは彼らの仕事になる。

(2) 仕立て、修繕

紳士服、婦人服の仕立て、修繕とも可能であるが、布地の種類は少なく、高い技術はない。

(3) 保管

雨期が長いため、衣類のかびには悩まされる。雨期に入る前に忘れずにクリーニングしておき、晴天の際に風を通したり、エアコンをかけたりする必要がある。

日本から大型の密閉容器と除湿剤を持参すると便利である。防虫剤はスーパーなどで入手できる。

3. 住宅

3-1 一般事情

賃貸住宅には独立家屋が多く、アパート、マンションなどの集合住宅は少ない。独立家屋には2階が居住部分、1階が車庫および使用人室となっているものが多く、防犯上も好ましい。また、1、2階とも同じ間取りで1階に家主が居住し、2階を貸しているフラットといわれるところもある。フラットは防犯上からも単身赴任者などに適している。

スヴァ市内には外国人が多く住む3つの地域があるが、邦人の大多数はタマヴァ、ナマンディ・ハイツ地区に住んでいる。平均的な家賃は1500～2000フィジードルである。

3-2 ホテル事情

JICA関係者はJICA事務所を通して利用するとよい。邦人がよく利用する次のホテルはスヴァ中心部に集中している。

<高級（ツイン100フィジードル～）>

セントラ（旧トラベロッジ）

電 話：301600

FAX：300251

ベルジャヤ・イン

電 話：312300

FAX：301300

<中級（ツイン80フィジードル程度）>

サザンクロス・ホテル

電 話：314233

FAX：302901

ペニンシュラ・ホテル

電 話：313711

FAX：314473

トロピックタワー（キッチン付）

電 話：304470

FAX：304169

カプリコーン

電 話：303732

FAX：303069

スヴァ モーターイン

電話：313973

FAX：300381

3-3 住宅の探し方

斡旋業者や新聞広告を利用したり、在住邦人から紹介を受けて探す。

斡旋業者は次のとおりである。

Titus Real Estate Ltd.

電話：301171、302812

Rolle Reality

電話：304544、304543

Mani & Co., Ltd.

電話：302555

Knooly Apartment

電話：313582

3-4 住宅の選定上の留意点

<立地>

通勤、買い物、通学に便利な場所（スクールバスの経路など）であること。また、周辺の治安や景観、静かさ、風通しなどを確かめる。

<形式>

House（戸建ての平屋か2階建て）か、フラット（2、3階建てのワンフロア）か、Apartmentか確かめる。

<防犯>

家の周囲三方をほかの住居に囲まれていることが望ましい。ベスト、フェンスの有無、侵入の可不可、パーグラーパーの有無、網戸（Screen）、ドアの強度（特に主寝室）、各出入り口の鍵数、電子警報装置、防犯灯の有無や機能を確認する。

<設備>

天井のファンやエアコンの有無と機能、家政婦／夫用の住居や家具の有無を確認する。

3-5 住宅の契約

契約は数カ月間でもよいが、2、3年の長期契約のほうが有利な場合が多い。家賃は毎月初めに家主の銀行口座に振り込むのが一般的である。前払いの習慣はないが、敷金1カ月を支払うケースもある。

賃貸契約書の作成には、必ずJICA事務所に相談すること。

3-6 電気、ガス、水道などの手続きと管理

家屋や備え付け家具には家主が火災盗難保険をかけている。また、借り手も高価な品物を持ち込む場合は盗難保険をかけている。家屋の維持管理は基本的に家主の責任であるが、借り手の過失によるものは借り手の責任で処理しなければならない。

電話は、家主名義の電話を名義変更して使用するか、Telecom Fijiに新規に申し込む。外国人の場合は500フィジードルのデポジットが必要である。

電気、水道は、家主名義のまま請求書のあて先変更を届ければデポジット不要である。電話、電気、上下水道の料金は毎月1回請求がある。期限までに支払わないとすぐに供給を停止されてしまう。

ガスはプロパンガスである。ガス会社またはその代理店で購入する。

生ゴミは週3回、市の清掃車が月・水・金または火・木・土に収集する。庭木、枝葉などは、別途週1回収集される。トイレは水洗である。

3-7 その他

特になし。

4. 医療

以下の記述は、執筆者が現地滞在経験に基づきまとめた一般参考情報で、必ずしも医療専門家の校閲を受けたものではありません。したがって、詳細（特に緊急時の対応や予防薬の服用方法など）については、事前に医療関係者から専門的アドバイスを受けるようにしてください。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

入国に際して義務づけられているものはないが、破傷風、A、B型肝炎ワクチンは接種しておいたほうがよい。新生児に必要な予防接種は当地で可能である。

(2) その他の準備

眼鏡、コンタクトレンズ店はあるが、予備を含めて持参したほうがよい。

歯科治療は、材料を海外へ特注するなどして時間を要することがある。赴任前に完治させることが望ましい。

常備薬として信頼できる胃腸薬などを持参したほうがよい。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

医薬分業である。入院可能な病院は次のCWM病院のみである。

CWMH : Colonial War Memorial Hospital (総合病院)

所在地 : Waimanu Road

電話 : 313444

Dr. De Asa's Medical Clinic (JICA事務所、協力隊顧問医)

医師 : Dr. Virgilio De Asa

専門 : 歯科・眼科・耳鼻科を除く全科

所在地 : 46 Gordon Street, Suva

電話 : 314450

診療 : 月～金8:00～12:30、13:30～17:00、土8:00～12:30 (要予約)

備考 : 予防接種は予約不要だが患者がいないと早めに閉める場合がある。緊急時往診可能

Dr. Sahu Khan's Dental Operatory (歯科)

医師名 : Dr. Imtias Sahu Khan

所在地 : 1st Floor Sukuna House, Victoria Parade, Suva

電話 : 311423

診療 : 月～金 (要予約)

備考 : 一番人気の歯科。2、3週間先まで予約がいっぱい。初診料約50フィジードル

Dr. Abdul Haroon Dental Surgery (歯科)

医師名 : Dr. Abdul Haroon

所在地 : Suite 12, Epworth House, Nina St., Suva

電話 : 313870

診療 : 月～金 (要予約)

備考 : およそ1週間前までに予約が必要だが、緊急時は応相談

Marks Street & Specialist Medical Centre Ltd. (耳鼻咽喉科)

医師名 : Dr. Pradeep Narayan

所在地 : 59/63 Marks Street, Suva (Century Theatreの左、Deojiの上)

電話 : 304774 (要予約)

Marks Street & Specialist Medical Centre Ltd. (眼科)

医師名 : Dr. Girish Jamnadas

所在地 : 59/63 Marks Street, Suva (Century Theatreの左、Deojiの上)

電話 : 303885 (要予約)

(2) 緊急時の対応と措置

緊急時は前述のDr. De Asaに往診を頼むか、Telecom Fiji（電話：000）を通して救急車を依頼する。000番にかけるとまず交換手が出る。「Ambulance Please」と言って救急受付につないでもらい、救急担当者に住所、氏名、症状を説明して救急車を依頼する。スヴァ地区ではSt. John Ambulance Associationが救急輸送を実施している。

内科、外科などの高度な手術治療を必要とする場合は緊急移送サービスを利用して、本邦もしくはオーストラリア、ニュージーランドへ移送することになる。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

信頼できる家庭用常備薬のほか、持病のある人は治療に必要な医薬品を忘れずに持参すること。

(2) 任国で調達できる医薬品

ほとんどの医薬品は入手可能であり、週末も営業している薬局がある。一部の医薬品は医師の処方せんが必要であるが、小児用を含めカゼ薬などは容易に薬局で購入できる。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、包帯、ガーゼ、避妊具などは入手可能である。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

日本製の市販カゼ薬や解熱鎮痛薬は出血を助長する成分（アスピリン）を含むことが多いため、高熱が見られる場合（ Dengue熱の可能性はある）は使用してはならない。必ず現地病院、薬局で処方されるパナドールを服用すること。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

邦人の分娩例は多くないが、帝王切開も可能である。早生児のための保育器も準備されており、流産の対応も問題はない。

Nandan Clinic, Birthing & Ultrasound Centre（産婦人科）

所在地：361 Waimanu Road

電話：311361

(2) 出産後の対応

母子検診は保健所で受けられる。BCG、3種混合（DPT）、B型肝炎ワクチン、はしかなどの予防接種が可能である。

(3) 育児

哺乳瓶、紙おむつ、粉ミルク、ベビーパウダー、ベビー石鹸、チクビ、衣類など育児用品は一通り入手できる。強い日差しとやぶ蚊などに注意すること。

4-5 手術

(1) 任国で可能な手術

高い専門性を要するもの（脳神経外科、重症心疾患、耳鼻科など）を除き、可能である。途上国の中では比較的衛生的ではあるが、不十分な術後管理からくる二次感染、合併症を起こすこともあるため、オーストラリア、ニュージーランドなどで受けるケースが多い。

(2) 手術設備の状況

CWM病院、ラウトカ病院の設備が最も整っており、ICU、回復室も備わっている。

(3) その他の留意点

患者の関係者からの献血や食事の差し入れは可能である。場合により手術の立会いや付き添いなども認めている。個室は少なく、古めかしい。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

<カゼ・扁桃腺腫脹>

症 状：発熱・のどの痛み・腫れをともなうことが多い。

原 因：ウイルス感染、扁桃腺への細菌感染。

予防策：うがいを励行する。手を洗うたびにうがいも行うよう習慣づける。予防時にはうがい薬は必要なく、水でよい。

治 療：体調に留意し、かかったと感じたらすぐにカゼ薬を服用する。のどの痛み・腫れには、濃いめに溶いたうがい薬（イソジンなど）でうがいする。発熱したらただちに医療機関で診察を受ける。

注 意：発熱時は Dengue 熱の可能性もあるので、日本製感冒薬や解熱鎮痛剤を避け、必ず現地病院、薬局で処方されるパナドールを服用すること。

<ボイル>

症 状：痛みの強い赤いしこりができ、中心に膿をもった小さな点が見える。しこりは次第に大きくなり、真ん中が柔らかく化膿した後、自然排膿する。放置すると38℃以上の発熱をともなう。手のひらと足の裏を除きどこにでもできるが、特に背中や尻にできやすい。顔にできたときは重傷化することがある。

原因：細菌が毛穴や汗腺に入って炎症を起こし、広がっている状態。虫に刺された部分をかいているうちにできることが多い。

予防策：皮膚を清潔に保つ。市販の抗菌石鹸（PROTEXなど）の使用が有効。

治療：ゲンタシン軟膏（持参すること）を厚く塗ったガーゼを患部に貼り、医師に診せる。特に、顔にできたときは速やかに診察を受けること。化膿止め・痛み止めで発熱と痛みを取り、創部の軟化・自然排膿を促進させる。創部の軟化後、自然に排膿しないときはメスで小切開する。入浴、飲酒は避け、手で触らないこと。排膿後、自然治癒する。

<虫刺され部位の炎症>

症状：強いかゆみと腫れが3日以上継続し、化膿、水ぶくれ、いぼ状の結節を生ずる。

原因：蚤、ぶよ、ダニに刺された部位に起こる。細菌感染、アレルギーによる。

予防策：虫に刺されないこと（長袖、長ズボン、靴下着用。蚊帳、蚊取り線香使用）。寝具の虫退治には市販の虫除けスプレーAEROGARDが有効なことがある。

治療：レスタミン軟膏、キンカンなどを使用して、できるだけ早くかゆみを止め、かかないようにする。

(2) 風土病、伝染病

< Dengue熱 >

原因：病原体はウイルスで、ネッタイシマカやヒトスジマカなどのやぶ蚊により媒介する。これらの蚊は昼間に活動し吸血する。発病前日から発病後5日目までの人が感染源となる。

潜伏期：2～15日。5～8日のことが多い。

予防策：蚊に刺されないこと（長袖、長ズボン、蚊取り線香、虫除けスプレー使用など）。

症状：重症化することはほとんどないが、次の症状が見られる。

- 1 突然発熱し、高熱が約1週間続く。解熱後1～2日後に再度発熱することもある。
- 2 めまい、ふらつき、倦怠感。解熱後も1～2週間持続する。
- 3 全身の痛み。特に背筋痛、関節痛、筋肉痛、目の奥の痛み。
- 4 顔面の発赤、結膜充血。

- 5 脱水症。発熱の持続による体液喪失、食欲不振による水分摂取不足による。

治 療：

- 1 症状が表れたら近くの医療機関で診察を受ける。当地ではウイルス検査が困難なため、症状から診断する。
- 2 症状に対する治療を行う。通常、パナドール、インダシン坐薬などが使用される。
- 3 水分をできるだけ多く取り、安静にして休む。
- 4 脱水症状が表れた場合は点滴を行う場合もある。
- 5 体を冷やす（氷枕、水シャワーなど）。

注 意： 出血を助長するためアスピリンを含む日本製カゼ薬や解熱鎮痛剤は避けること。

その他、淋病、梅毒、クラミジアなどの性病発生数が比較的多い。

1999年2月現在、国内のHIV感染者は43人である。

(3) 有害動物、病害虫

デング熱の原因となる蚊がいる。狂犬病の可能性は低いですが、当地では犬を放し飼いにしていることが多い。咬まれたら傷口をよく洗い、消毒して手当とする。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

一般に水道水を利用しており、水質がよいので直接飲用することも可能である。ただし、雨が続くと濁ることがあるので、このときは煮沸する。また、ときおり断水することがあるので水のくみ置きが必要である。

国産、ニュージーランド産のミネラルウォーターも市販されている。

(2) 濾過器の入手

不要と思われる。

(3) 蚊帳、防虫ネットの入手

該当情報なし。

(4) その他の留意点

雨期は高温多湿のため、小さな傷でも化膿しやすい。意識して身体を清潔に保つこと。国内産の野菜には虫がついていることが多いのでよく洗浄すること。

5. 教育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

義務教育制度はないが、日本の小学校に相当するプライマリースクール（Class 1～8）では無償教育を実施している。対象は前年の6月末で満5歳に達した子供からであり、プライマリースクールへの就学率は100%近い。

Class 6～8の間に毎年行われる一斉試験に合格すれば、中・高等学校に相当するセカンダリースクール（Form 1～7）の1～3学年にそれぞれ入学できる（Class 7＝Form 1）。セカンダリースクールは7年制であるが、大学など上級学校へ進学する場合は6年で卒業する。

上級学校にはF. I. T. (Fiji Institute of Technology)、フィジー技術専門学校、師範学校、南太平洋大学（USP : University of South Pacific）がある。

旧宗主国である英国の教育制度をとっているため、各人の能力によって飛び級などがあり就学期間が異なる。各種教材の不足および経験のある教員の不足などから、教育水準は高くはない。

新学期は1月から始まり、11月末までに3学期ある。学期ごとに2週間ずつの休みがあり、暑い盛りの年末年始が長期休暇となる。

(2) 日本人学校

在住邦人は家族を含めても240人程度であり、日本人学校を設立するには至っていない。年1回、シドニー日本人学校より教師1人が5日間ほど派遣され、補習授業を行っている。

(3) 現地校、外国人学校

唯一のインターナショナルスクールであるInternational School Suvaがスヴァにあり、邦人子弟の多くはここに在籍している。小学校（6年）、中・高等学校（7年）があり、英語で授業を行っている。

International School Suva

所在地 : Ratu dovi road laucala beach

電 話 : 393300

F A X : 340017

備 考 : 4学期制。始業7:55、終業14:45

現地校はスヴァ市内に多い。教育レベルの高い、評判のよい学校には入学希望者が集中するため、入学は早めに申し込む必要がある。編入は欠員待ちしなければならない

いこともある。現地校に通う邦人子弟も数人いる。

(4) 幼稚園

すべて私立で、YWCA幼稚園、インターナショナルスクール付属幼稚園、Yat Sen付属幼稚園、USP付属幼稚園のほか、自宅で保育しているSchool of 9が住宅地に散在する。通園バスはない。

Little-ones learning Center

所在地：15 Amputch Street

電話：321356

備考：多くの邦人子弟が通園している

5-2 入学手続きおよび授業料

(1) 日本人学校

該当情報なし。

(2) 現地校、外国人学校

<International School Suva>

1999年度の年間費用は次のとおりであった（単位：フィジードル）。

登録料		250
施設費		400
授業料	小学校	5090
	Form 1~2	6380
	Form 3	7350
	Form 4~7	7750
教材費		120~248（教科書代別途）
スクールバス		200

入学手続きに必要な物は、入学願書、親の同意書、子弟の学歴である。入学許可通知書入手後、授業料などを支払う。授業料は学期ごとに納めてもよい。

通学手段は父兄による送迎かスクールバスである。スクールバスは5路線あり、各住宅地をカバーしている。住宅選定の際にスクールバスのルートを考慮すること。

1999年度は1学期1/26~4/1、2学期4/20~6/25、3学期7/13~9/17、4学期10/5~12/2であった。

<現地校>

小学校では政府が無償教育を実施している関係で授業料は格安である。邦人子弟が在籍しているYat sen小学校の場合、入学金はなく、授業料は年間150フィジードル、

教科書代は25フィジードルである。各学校により費用は若干異なる。学校の設備向上を目的とするPTAの募金活動はどの学校でも盛んである。

(3) 幼稚園

直接幼稚園に出向いて入園申込書に記入し、入園金を支払う。

Little-ones learning Centerの場合、入園金は405フィジードル、年間保育料は1438フィジードルである。学期は上記International School Suvaに準じる。通園は父兄の送迎による。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

USPには南太平洋地域最大の図書館があり、登録すれば貸し出し可能である。また、スヴァ市立図書館もある。すべて英語の書籍である。

(2) スポーツ施設

National Stadium, National Gymnasium, Olympic Poolなどがあり、ラグビー、サッカーなどの陸上競技やネットボール、バスケットボール、バレーボールなどが盛んに行われている。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

英会話の個人授業は可能であるが、適当な先生を見つけるのは難しい。

1999年から、邦人小学生が日本語補習の目的で週2回集まって勉強会をしている。

(2) 通信教育

海外子女教育振興財団のほか、「こどもチャレンジ」などの民間通信教育もあるので、赴任前に検討して手続きしておくといよい。

海外子女教育振興財団（ホームページ：<http://www.joes.or.jp>）

東京本部

所在地：〒105-0000 東京都港区虎ノ門1-21-17 虎ノ門NNビル6階

電話：03-3580-2521（代表）、03-3580-2827（通信教育課）

FAX：03-3503-7238

E-mail: joes1@netforward.or.jp

関西分室

所在地：〒530-0001 大阪市北区梅田1-3-1-200 大阪駅前第一ビル2階

電話：06-6344-4318

FAX：06-6344-4328

(3) 携行したほうがよい家庭用学習教材

教科書は大使館から配布される。当地には日本語書籍がなく（JICA事務所図書室に帰国者が寄贈した本がある程度）、また、日本語に接する機会も少ないので、年齢に応じた各種の書籍を持参するとよい。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

一般家庭では、家事全般を手伝う家政婦／夫を通いか住込みで雇用している。

また、独立家屋に居住の場合は通いの庭師を雇用している。求職者が多いため求人は容易である。

営業車、公用車を除き、運転手の雇用は一般的ではない。

6-2 運転手

(1) 雇用

新聞広告を使う方法もあるが、知人の紹介で身元の確実な人を雇うのが無難である。月給は500フィジドル程度で、隔週ごとに分けて支払うのが一般的である。契約書を作成する習慣はなく、口頭で条件を申し渡すのが一般的である。

遠出をする場合など、必要なときだけタクシー会社から運転手を派遣してもらってもよい。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-3 家政婦／夫

(1) 仕事の種類と人数

邦人家庭では1人の雇用が一般的である。掃除、皿洗い、洗濯、子守、料理の下ごしらえのほか、留守番などをしてもらう。

(2) 雇用

知人の紹介によることが多い。希望者が多いため、面接で複数人から選ぶことが可能である。契約書をつくる必要はなく、条件を口頭で申し渡す。試用期間を1カ月設

ける。

家人の外出が多い場合は、留守番、子守などのため住込みのほうがよい。ほとんどの住宅には使用人室がある。

通常、休日は土日、祝日であるが、土曜日の午前中まで仕事を頼むこともできる。賃金は週給40～60フィジードル程度で、金曜日の朝に支払う。ボーナスの習慣はないが、クリスマス前に週給程度を渡すとよい。パーティーなどで夜遅くまで働いてもらった場合は、1時間あたり1、2フィジードル程度を渡す。

解雇は口頭で申し渡すだけでよい。

(3) 日常管理

貴重品は鍵のかかるところへ保管すること。休暇で長期間留守番を依頼する場合は、テレビなども寝室に移し、施錠するほうがよい。

6-4 庭師、ガードマンなどの雇用

庭師は庭の広さに応じて週1、2日、1日10フィジードル程度で依頼できる。知人の紹介によることが多い。やはり契約書を作成する必要はない。

草刈り機を持った草刈り業者が巡回しているので、適宜呼び止めて草刈りを頼める。庭の広さにもよるが1回10ドル前後である。

一般家庭ではガードマンは雇用していない。しかし昨今は週末に空き巣が多発しているため、住込みの家政婦／夫がいない家庭で長期間留守にするときには、信頼できる人に留守番を依頼すること。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

<市内バス>

乗車距離に応じて30～50セントで利用できる。市販のスヴァの地図にバス路線が明示してある。運行数は路線によるが、多い路線では約10分おきに運行している。前方のドア（1カ所のみ）から乗降し、乗車時に運転手に運賃を支払う。小銭の用意が必要である。窓ガラスはないので、降雨の際は丸めてあるビニールシートを垂らす。

<タクシー>

台数は多い。市内のタクシースタンドから乗車するか、流しを利用する。大手のタクシー会社には無線があり、電話で指定された場所に配車してくれる。初乗り料金は

50セントで、250mごとに10セントずつ加算される。22:00～6:00は夜間割増で50セント加算される。市内であれば、およそ4フィジードル以内で移動できる。

郊外へ行く場合はおよその料金が決まっており、スヴァ市内からナウソリ空港までは17～20フィジードル、スヴァからナンディ国際空港までは100～120フィジードルである。

<長距離バス>

各主要都市間を定期的に運行しており、時間はかかるが料金は安い。ヴィティ・レヴ島の場合、首都スヴァ～第2都市ラウトカ間を南のクイーンズロードと北のキングスロード経由で結んでおり、各路線を数社が運行している（1日6～17便）。

クイーンズロード経由でスヴァからラウトカまでは急行で5時間、料金は11フィジードルである。

<フェリーボート>

ヴィティ・レヴ、ヴァヌア・レヴ、タベウニ、カンダヴの島々を結んでいる。スヴァ～サヴサヴ間の所要時間は11時間、料金は30フィジードルである。

<国内航空>

主要都市間や離島間を2社が運航している。ナンディ～スヴァ間は最も便数が多く、1日約15往復している。続いてスヴァ～ランバサ間は4往復である。

離島へは15～25人乗り程度の小型機が1日2便から週2便ほど運航している。

(2) 自家用車を利用する場合

運転マナーはよいとはいえず、ウインカーなしの右左折、飲酒運転やスピードの出し過ぎが見られる。整備不良の車両も多く、片目のヘッドライトでの走行も見られる。年間100名程度が交通事故で死亡している。

首都スヴァのあるヴィティ・レヴ島外縁部を道路が走っている。1周は約500kmあり、キングスロードのコロボウ～ラキラキ間の約60kmが未舗装である。各都市内の大部分は舗装されているが、簡易舗装なので穴が多い。

ヴァヌア・レヴ島ではランバサ～サヴサヴ間を除き未舗装道路が多く、慎重な運転が必要である。郊外では牛、馬などの家畜にも注意する必要がある。

ガソリンスタンドは各地にあり、都市には24時間営業のスタンドもある。

(3) レンタカーなどを利用する場合

AVIS、Budget、Hertzなどが主要都市や空港に支店を設けている。カローラ、サニークラスで1日あたり120フィジードル程度である（走行距離無制限）。

(4) 道路地図

ガソリンスタンドや書店で入手できる。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

軽い接触事故などは示談にする場合が多い。大きな事故や人身事故の場合は警察を呼び（電話：000、007）、調書を作成してもらう。もちろん、負傷者を病院へ運ぶのが先である。

(2) 救急病院

スヴァ近郊であればCWM病院、ヴィティ・レヴ西部ではラウトカ病院に運ばれる。

(3) 盗難

車両の盗難は増加している。ハンドル固定式の盗難防止用品の利用が望ましい。また、十分な額の任意保険への加入をすすめる。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

日本と同様に左側通行、右ハンドルであり、法規も大差ない。ただし、ラウンドアバウト（ロータリー）では、右側から来る車が優先である。

制限速度は市内50km、郊外80km（一部60km）である。最近ではスピードガンによる取り締まりが多い。

シートベルト着用が義務づけられており、後部座席でも必要である。

(2) 対処方法

運転の前に交通法規を一読し、交通ルールを承知しておく必要がある。

7-4 車の修理

(1) 部品

日本車が95%以上を占めており、中古車ではトヨタ社のシェアが大きい。各社の代理店のほか部品店も数多く、純正品から汎用品まで問題なく入手できる。

車両を当地に輸送する際、オイルフィルターなどの交換部品もあわせて送るとより安心である。

(2) 修理工場

日本車メーカーの各代理店が修理工場をもっており、たいていの修理は可能である。そのほか、整備・板金・塗装業者が多数いる。

8. 通信

8-1 電話

(1) 一般事情

交換機の自動化が進められ、離島や地方の一部を除きダイヤル直通である。都市部では携帯電話も普及している。公衆電話はカード式で、Phone Cardには3、5、10、20、50フィジードルがある。

自宅への電話設置はTelecom Fiji Ltd. で申し込む。外国人の場合は申込金、工事費など約100フィジードルのほか、デポジット500フィジードルが必要である。毎月の基本料金（電話機、回線借料）は約10フィジードルである。

(2) 国内電話

ダイヤル直通の場合、市内通話には時間制限がなく、1通話12セントである。

市外通話は同州内（Within the region）で45秒まで2セント、その後1分ごとに16セント加算、他州（Outside the region）へは15秒まで12セント、その後1分ごとに48セント加算される。交換手がつながる場合は異なる。

公衆電話からは、ダイヤル直通でも市内3分20セント、市外は3分60セント、他州へは3分1.40フィジードルとなる。

(3) 国際電話

自宅の電話はもちろんのこと、カード式公衆電話や携帯電話からも、ダイヤル即時通話が可能である。また、日本との通話状態も良好である。国際発信の番号は05で、たとえば東京へは、05-81-3-電話番号となる。料金は1分あたり2.67フィジードルと消費税である。また、Victoria ParadeのFINTELからも発信できる。

(4) 携帯電話

Vodafone Fijiの場合、申し込み時に300フィジードルのデポジットがかかる。電話機は買い取り制で約100フィジードルである。Telecom Fijiの携帯同士で通話した場合、料金は1分60セントである。

8-2 電信

(1) ファクシミリ

都市部では普及している。送受信器はTelecom Fijiやパソコン販売店で購入可能である。本邦から持参する場合は、電圧に注意してトランスを使用すること。変換ジャックは当地のUniversal Electronicsで購入可能である。

また、主要都市の郵便局やスヴァのFINTELでも送信できる。日本へは10枚以内で1ページあたり7.70フィジードルと取扱手数料3.30フィジードル（消費税込）がかか

る。

(2) テレックス

Telecom Fijiで申し込めるが、一般的ではない。

(3) 電報

Post Fiji (郵便局。月～金8:00～17:00)、FINTEL (月～土8:00～20:00) で受け付けている。

(4) インターネット

プロバイダはTelecom Fijiが一般的である。加入料110フィジードルで設定までしてくれるが、Macintoshに通じている人は少ないようである。月額基本料金22フィジードル、通信料12セント/分(消費税込)、通信速度は28.8kbpsである。

また、家庭用にHome user packageがあり、加入料110フィジードル、1カ月10時間接続で48.40フィジードルである。10時間を超える通信料は12セント/分、通信速度は14.4kbpsである。詳細はTelecom Fijiのホームページ<http://www.is.com.fj>を参照のこと。

8-3 郵便

(1) 一般事情

郵便事業は電話事業とともに1996年に民営化され、サービス状況は良好である。

当地～日本間の封書やはがきの送付は、双方から4、5日かかる。封書は15gあたり81セント、定型はがきは送付する国にかかわらず23セントである(大きなはがきは封書料金)。

郵便物は宅配される。また、JICA事務所気付にすることも可能である。私書箱の開設も可能であり、開設料金は年間15フィジードルである。

日本からの小包はEMSを利用すると通関が早く、自宅に配達される。

中央郵便局 (Suva General Post Office)

所在地: Edward St.

電話: 019

(2) 課税

日本からは航空便、EMS、船便を利用することになる(フィジーはSAL対象外)。

20kgを超える物は送付できない。一箱の内容物の相当価格が合計200フィジードル、日本円で約1万2000円(1998年10月現在)を超えるものは課税される(輸入関税10～27%+消費税10%)。

卵と肉を成分とする食品は検疫の対象となり、手続きに時間を要する場合がある。

ときには受け取れないこともある。

小包はまず郵便局から通知が来るので、これを持参して郵便局で受け取る。内容品を日本語で記入してある場合は、中身のチェックが行われる。録画済のビデオテープは検査後に引き渡されるため、受け取りまで約1週間かかる。

(3) 民間サービス業者

OCS Fiji Office

Manager : Mr. S. Singh

所在地 : c/o Couriers Documents Parcels Service Ltd., 23-25 Matua St. Walu Bay, Suva

電 話 : 313077

F A X : 300391

TELEX : 2381 (2381 COURIER FJ)

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

英語紙の『The Fiji Times』と『Fiji Daily Post』のほか、ヒンズー語、フィジー語紙がある。いずれも朝刊だけで夕刊はない。平日は一部60セント、土日は70セントである。『The Fiji Times』と『Fuji Daily Post』は宅配可能で、購読は新聞社の窓口で申し込む。1年215フィジードル、6カ月120フィジードル、3カ月60フィジードルである。

(2) 本邦日刊紙

東京のOCSに申し込む。4、5日遅れで指定の場所へ配達される。

OCS東京事務所

所在地 : 〒108-0023 東京都港区芝浦2-9

電 話 : 03-3453-8311

F A X : 03-3453-8329

URL : http://www.ocscourier.com/office_dir/set_world_country.html

(3) 欧米紙

オーストラリア、ニュージーランド、香港の新聞は、数日遅れでスーパーマーケットで販売されている。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

国営放送のFBCが、英語（1089AM、104FM）、ヒンズー語（774AM、98FM）、フィジー語（558AM）で5:00～24:00に放送している。そのほか、FM96（96FM、24時間放送）やBula FM102.40などの民間ラジオ局がいくつかある。

(2) ラジオジャパン

オセアニア向け放送が受信できる。デジタル式の受信機を持参すれば選局しやすい。アンテナをベランダや屋上などに設置すると受信状況はさらによくなる。

NHK国際局編成部

所在地：〒150-8001 東京都渋谷区神南2-2-1

電話：03-3465-1111

番組表を含む情報提供サービス：<http://www.nhk.or.jp/rjnet/index-j.html>

日本語放送の周波数表Fax Service：03-5454-0888 情報番号260

(3) 聴取可能なその他の外国放送

英国BBCは24時間中継放送している（107.60FM）。オーストラリアABCなどの受信状態もよい。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

FIJI ONEが24時間放送している。FIJI ONEが自社制作したものは平日15:00～22:00、週末11:00～22:00に放送され、その他の時間はオーストラリアABCなどをリレー放送している。ニュースは毎日18:00から放映される。

(2) テレビ受信

受信方式は英国、オーストラリアと同じPAL方式である。テレビ、ビデオともマルチタイプが豊富に販売されているので、日本から持参する必要はない。

(3) ライセンス料金など

SKY TV（有料放送）には娯楽とスポーツの2チャンネル（カラー放送）がある。加入時50フィジードルでデコーダーが貸与され、受信料は1カ月30フィジードルである。

パラボラアンテナと衛星放送受信機で衛星放送、米国CNNやNHK国際放送（1日18時間）を受信可能である。一部のホテルやマンションでも視聴できる。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

映画は主な娯楽として楽しまれている。映画館はスヴァ市内に4軒あり、欧米の新作も上映される。日本国大使館では月に1回（第4木曜日）、邦画を上映している。

Village Six

所在地：Scott Street（日本国大使館、JICA事務所があるドミニオンハウスの前）

備考：1996年8月開館の複合映画館（スクリーン数6）。連日約12本（主に米国、インド作品）を上映。料金は大人4フィジードル、子供3.30フィジードル。毎週火曜日はSuper Tuesdayとして大人3フィジードル、子供2フィジードルで観られる

(2) 劇場

Fiji Arts Club Playhouse (Selbourne St.) があり、同クラブメンバーによってドラマが上演される。

10-2 出版、書籍

(1) 一般事情

月刊雑誌は、国内の記事が中心である『The Review』、『Fiji Islands Business』などと大洋州地域の情報である『Pacific Islands Monthly』、『Islands Business』などの2つがある。その他の書籍は年間数冊程度の出版である。

英国、オーストラリア、ニュージーランドなどの出版物は、市内の書店で容易に入手可能である。

(2) 書店

<スヴァ市内>

Suva Book Shop

所在地：5 Greig St.

電話：311355

FAX：301721

備考：洋書、ヒンズー

Dominion Book Center

所在地：Dominion House

電話：304334

FAX：312951

備考：洋書

USP (南太平洋大学) Book Centre

電話：212500

備考：洋書、大学教科書、地域関連出版物豊富。日本書籍の取り寄せも可能

<ナンティ>

T. B. Clarke (Overseas) Pty Ltd.

所在地：Orchid House NADI

備考：洋書。取り寄せ可能

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

Alliance Francaise (フランス語、フィジー語、ヒンズー語)

所在地：77 Cakobau Rd.

電話：313802

FAX：313803

備考：3学期制。授業料50～100フィジードル程度

YWCA (英語)

所在地：Central St.

電話：304829

備考：学期制。授業料は50フィジードル

上記のほか、International Womens AssociationがESL (English as Second Language) の夫人を対象に、英語クラスを週1回実施している。メンバーであれば授業料は無料である。

(2) 家庭教師

知人の紹介で家庭教師を依頼できる。謝礼は1回(1時間)につき20フィジードル程度が目安である。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

展覧会などは年1回程度である。各大使館では小規模な催しをしている。

博物館はサーストン公園内にあり、伝統的な手工芸品、武器、衣装などを展示している。平日8:30～16:30、土日14:00～17:00に開館しており、入館料は3.30フィジードル(Local Price 1.10フィジードル)である。

スヴァから西へ車で約40分のパシフィック・ハーバーにMarket place and Cultural Centreがあり、手工芸品の製造過程、フィジーダンス、昔の部族間戦争の様相などが

見られるが、現在（1999年）は休館中である。

スヴァからクイーンズロードを車で約20分のところにはOrchid Island Cultural Centreがあり、昔の家々や生活、フィジーの動物を紹介している。

美術館、水族館はない。

(2) 日本友好協会などの有無と活動内容

日本フィジー友好協会が設立された模様であるが詳細は不明である。

(3) その他の文化活動、文化施設

該当情報なし。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写真

フィルムはフジ、コニカ、コダックなどのカラー、白黒、ネガ、スライド用があり、写真用のAPSフィルムもある。カラー24枚撮りで5フィジードル程度である。

現像、焼付にはカラー用の機械を使用しており、30分から半日で仕上がる。料金は24枚撮りで15フィジードル程度である。

カメラ、その他の付属品は種類も豊富で入手しやすく、価格も日本の量販店と同程度である。

(2) ビデオセット

VHSが主流である。PAL方式であるが、テレビ、ビデオデッキともにマルチ方式が豊富に販売されている。21インチのテレビとビデオデッキのセットで1500フィジードル程度である。レンタルビデオ店は多く、料金は3フィジードル程度である。

(3) 各種テープ

日本から送付されたビデオテープは検閲後に引き渡される。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

非常に音楽が好きな国民性であるが、クラシックの音楽会は少ない。

(2) コーラス、演奏グループ

Fiji Arts Clubがある。

(3) ピアノなど

Dragon Music、South Sea Musicなどの楽器店で購入可能である。電子ピアノもある。レンタルのシステムはない。

(4) CD、レコードなど

専門店が数軒あり、洋楽を扱っている。ミュージックテープが豊富であるが、クラ

シックは非常に少ない。日本人アーティストの物は持参するしかない。

(5) 民族楽器

ラリという木をくりぬいて作った打楽器がある。リゾートホテルのトーチセレモニーやメケショーなどで演奏している。

(6) その他の楽器

楽器店はあるが、レンタルはない。

10-7 手芸、絵画、美術工芸など

(1) 手芸

趣味のある人は日本から材料を持参すること。

(2) 絵画、美術工芸

手工芸品には木彫りやタパクロス (P. 32参照) がある。物によって値段はまちまちである。

ガバメント・ハンドクラフトセンターには最も質の高い物が揃っているが、ほかの店と比べて値段は高い。

10-8 趣味

(1) 園芸

ランが自生しており、販売もされている。野菜や花の種子は簡単に入手できる。

(2) 釣り

海釣りが主である。貸船があり、ゲームフィッシングも催される。道具は日本製を含めて入手可能である。

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

室内の娯楽としてはブリッジが楽しまれている。マージャンやスポーツなどの小規模な賭けについては問題ない。

(2) レジャーランド、遊園地

常設のレジャーランドはないが、ハイビスカスフェスティバルなどの際に遊戯施設が開かれる。

10-10 スポーツ

(1) テニス

市内のあちこちにコートがある。会員制コートやスポーツ協会が運営するコートも使用可能である。スヴァ市内のピクトリアコートでは60分4フィジドルで使用できる。

(2) 水泳

市営のオリンピックプールやUSPのプールを利用する。時間に制限はなく、利用料は1フィジードルくらいである。泳いだ後には必ずきれいな水で目を洗うなどして眼病を予防すること。

スヴァ周辺の海は汚れており、海水浴には適さない。パシフィックハーバー、コーラルコースト、あるいは離島のリゾートがよい。

フィジーのあちこちでダイビングを楽しめ、スキューバダイビングの学校もある。海に必要な用具の多くは当地で入手可能である。

(3) その他のスポーツ、用具、ウエア

一般的な物は入手可能である。

(4) スポーツクラブなど

ポラリスエッジという会員制のジムがある。会費は1カ月約50フィジードルで、長期割り引きもある。

10-11 子供の遊び

市内のあちこちにある公園やプール、友人宅で遊んでいる。各種娯楽用品（ゲームなど）、玩具、自転車、三輪車などは市販されている。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

ANZ (Australia New Zealand) Bank、Westpac Bank、Bank of Hawaii、National Bankなどがある。

ANZ Bank本店

所在地：ANZ House 25 Victoria Parade

電話：213000

FAX：303649

JICA関係者はANZ BankにUSドル口座を開設し、各手当の受け取りに利用している。また、フィジードルの小切手口座やクレジットカード用の口座を開設し、支払いに利用している。クレジットカードはスーパーマーケットや小売店でも通用する。

11-2 コンピュータ

パソコン小売店が数店あり、IBMコンパチパソコンはプリンタ、モデム、スキャナなどの周辺機器とともに容易に入手可能である。Appleの代理店は1社のみであるが、

注文に応じオーストラリアから取り寄せてくれる。

プリンタのインクカートリッジ、トナーなども入手可能である。価格は本邦量販店の2倍弱程度である。

11-3 美容院・理髪店

シャンプーもしてもらえる美容院は数軒ある。カット20フィジードル、パーマ50フィジードル程度である。

Cut above salon Shop 3

所在地：Honson Arcade Thomson Street

電話：304553

Point Beauty salon

所在地：Vanua House Arcade Victoria Parade

電話：306010

理髪店はあちこちに散在しているが、外国人は美容院か次の理髪店を利用している。

Victoria Arcade Hairdressers

所在地：Victoria Parade

電話：315591

美容・理髪用品は当地でも各種販売されているが、日本製は少ない。愛用している物があれば持参すると安心である。

12. 観光

12-1 地方旅行上の留意点

国内旅行に対する規制、制約はなく、自由に旅行できる。

おおむね地方ほど治安は良好であるが、山中への旅行はグループで行くか、当国の案内人に同行してもらうほうが安全である。

各観光地へは車またはバス、飛行機、フェリーボートなどで出かけることになる。

ホテルは多い。6月から10月まではオーストラリア、ニュージーランドからの旅行者が多く、混み合うことがある。宿泊料金にはローカルレートも見られるので、予約の際に確認が必要である。詳細は観光ガイドなどを参照のこと。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

フィジーの観光のポイントは、博物館、伝統的な踊り、古来の生活様式の見学、あ

るいは海でさまざまなレジャー、スポーツを楽しむことである。

気候の関係で、主な観光地はヴィティ・レヴ島の西部地域に集中している。このあたりのリゾートホテルは、スキューバダイビング、ウインドサーフィン、水上スキー、ヨット、シュノーケル、釣りなどに必要な用具を揃えている。また、テニス、ゴルフ、乗馬用の施設を備えているところも多い。

民芸品としてタバクロス（木の表皮をたたき、繊維にして布にした物）、タノア（カヴァ儀式で使う木鉢）、人形、古来の武器などの木彫品、貝殻細工があり、ホテルやクラフトセンターなどで販売している。

郷土料理として、ロボ（穴を掘って、バナナの葉で包んだ豚肉、魚、タロイモを焼いた石で蒸し焼きにしたもの）、ロロ（野菜や肉、魚をココナッツミルクで煮込んだ物）、ココンダ（サワラ、シャコ貝をココナッツミルク、ライムであえた物）が代表的である。

12-3 旅行

(1) 自動車

スヴァを起点にヴィティ・レヴ島を1周できる。南海岸沿いに走るクイーンズロードと北海岸沿いのキングスロードがあるが、キングスロードのコロボウ〜ラキラキ間に未舗装道路があるほか、島の中央部の道路はほとんど砂利道である。雨期には崖崩れなどで閉鎖されることがある。

主要都市間には標識があり、まず迷うことなく走行できる。ガソリンスタンドは各所にある。

ヴァヌア・レヴ島、オヴァラウ島にはフェリーポートがある。

(2) バス

ヴィティ・レヴ島、ヴァヌア・レヴ島ともに長距離路線で結ばれている。特にスヴァ〜ナンディ間は観光客用にエアコン完備の車が1日2便あり、急行、普通をあわせると17便ある。所要時間は約4時間で、料金は観光客用車両が20フィジードル、そのほかは約10フィジードルである。急行バスの一部車両にはビデオサービスがあり、移動中に2本の映画を楽しめる。

(3) 鉄道

観光列車がフィジアンホテル〜ナタンドラビーチ間を1日1往復している。パーベキューのランチ付きで、料金は大人59フィジードル、子供はその半額である。

(4) 航空機

国内定期路線をもつのは、ナウソリ空港を基地とするAir Fiji、ナンディを基地と

するSunflower Airlines、国際線寄港便のAir Pacificの3社であり、全国15カ所に運航している。

スヴァ〜ナンディ間は所要時間30分、片道運賃86フィジドルで1日約15便飛んでいる。

機種はAir Pacificを除きEmbraer Bandeirante、DHC-6 Twin Otter、Shorts 330（すべて双発、15〜18人乗り）が使われている。

予約は各航空会社かもしくは旅行代理店経由で行う。

12-4 旅行代理店

旅行代理店は主として海外旅行および国内航空券を扱っており、国内旅行のホテルなどは個人で手配するのが一般的である。

主な旅行代理店は次のとおりである。

Air Fiji Travel

所在地：185 Victoria Parade

電話：315055

Hunts Travel

所在地：1st F100r Dominion House

電話：315288

Macquarie Travel

所在地：GF Dominion House

電話：315855

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

直接電話で予約する。支払いは現金かクレジットカードを使用する。AmexとVISAがフィジーを含めオーストラリア、ニュージーランド、その他の島嶼国でよく利用されており、当地でもカードの取得が可能である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 一般事情

該当情報なし。

(2) 緊急時の連絡

緊急連絡網に基づいて、電話で連絡することになる。JICA事務所からの連絡を待つ

だけでなく、所在確認のため各自が積極的にJICA事務所へ連絡すること。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況など

旅行ガイドには「フィジーは治安がよく、安心して旅行ができる国だ。泥棒は少なからずいるが、凶悪犯罪は皆無に等しい」などと書いてあるが、昨今、スヴァ、ラウトカなどの都市部では強盗事件が多発している。また、飲酒に起因する暴力事件は日常茶飯事である。犯罪被害に遭わないよう、防犯に努めることが肝要である。

1998年の犯罪発生件数は殺人14件、強盗1002件（人口比で日本の約70倍）、侵入盗1389件、強姦91件であり、邦人の被害で最も多いのが空巣、侵入盗である。

(2) 防犯対策

ホテルに滞在するときは、貴重品はセーフティボックスもしくは事務所金庫に預ける。室内の整頓に努め、ラジオ、パソコンなどを部屋に放置しないこと。外出時は身の回りの品をスーツケースに入れて施錠すること。

住居は安全な地域で選定し、三方を住宅で囲まれた家が望ましい。客観的に見て隣近所と比較して防犯対策の見劣りがしないことも大切である。玄関、勝手口ドアの材質、錠および鍵の種類、バーグラー（防犯格子）の強度、寝室ドアの材質、錠および鍵の種類、外灯、防犯灯、警報装置の有無や機能をチェックすること。

入居後は、使用人に留守番を頼む、犬を飼う、就寝時は室内を暗くして戸外を明るくするなど工夫すること。寝室には電話とサイレン付メガホン（事務所貸与）を備え、侵入された場合は大きな声で騒ぎ、最寄りのPolice Postに連絡すること。

外出時にはお金持ちに見られないよう留意すること。現金は分散してもち、他人にサイフの中身を見られないようにする。カバンはたすきがけにしないこと（引きずられる可能性があり危険）。ウエストポーチには貴重品を入れないこと。

ディスコ、ナイトクラブ付近や人気の少ないところは特に注意を要する。

乗合バスやタクシーで居眠りをしてはならない。

(3) 被害時の心得

寝室は施錠して、極力、侵入者と顔を合わせないように心がけるとともに、サイレン付メガホン、警報ベルを鳴らして警察に電話する。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況など

大型サイクロンが3年に1度くらいの頻度で襲来する。

環太平洋火山帯にあるため、統計によれば震度5、6程度の地震が記録されている。

る。

(2) 防災対策

サイクロンが接近したら、ラジオで気象情報の入手に努めること。学校の休校などの情報もラジオで流れる。

飲料水、食料、懐中電灯、ろうそくなどの備蓄をしておくこと。

倒木やヤシの実の落下に備え、車や物品の置き場所に注意すること。

(3) 被災時の心得

被災により自宅で生活できなくなった場合は、学校などが避難所に指定される。避難所へ退避するか、被害を免れた家へ身を寄せることになる。

いかなる状況でも、安否確認のため何らかの手段でJICA事務所へ連絡を入れること。

14. 出入国手続きおよび帰国手続き

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

JICA事務所がスヴァにあるため、通常はナンディの国際空港からスヴァのナウソリ空港に移動し、ナウソリ空港で職員などの出迎えを受けることになる。

(2) 入国手続き書類

必要書類はA6サイズの黄色い入国カードのみである。半分が入国審査用、半分が税関、検疫の申告書となっている。記入上、特に問題となるところはない。

(3) 入国審査

記入した入国カードと赴任前に取得した査証発給のための口上書、または受入確認レターのコピーを見せる。通常2週間から4カ月の査証を発給される。その後はJICA事務所が延長手続きを行う。

(4) 税関検査

免税範囲は酒類2ℓ、たばこ500本までである。

麻薬、銃器はもちろんであるが、肉、卵を含む食品や植物の持ち込みも厳しく制限されており、発見された場合はまず没収される。

観光立国をめざしていることもあり、スーツケースを開られることはほとんどないが、段ボールは開けられる可能性が高い。

(5) 空港内での留意点

預託荷物が未着であったり紛失した場合は、受け取りターンテーブル近くの航空会社職員に連絡する。

盗難は空港駐在の警察官もしくはガードマンに通報する。

体の不調は航空会社へ通報する。ナンディ空港内には診療所があるが、医師は常駐していない。

(6) 空港からの主な交通手段

ナンディからスヴァまでは空路と陸路があり、飛行機で30分、車で約3時間である。飛行機の乗り換えには待ち時間（1～3時間）があるため、タクシーを利用する人も多い。特に荷物が多いときにはバンタイプのタクシーが便利である。

ナンディ～スヴァ間の運賃は100～120フィジードルであるが、乗車前に交渉が必要である。ナウソリ空港～スヴァ市内間は17～20フィジードル程度である。運転手に要求すれば領収書を発行してくれる。

(7) その他の留意点

ナンディ国際空港には到着ロビーに銀行がある。時間に余裕があれば、必要に応じて現地通貨に交換しておくると便利である。ナウソリ空港の銀行は不定期営業である。

14-2 出国時

(1) 出国手続きの概要

ナンディ空港の場合、搭乗手続き、出国税の納付（領収書はステッカータイプで搭乗券の裏に貼付）、イミグレーションで出国手続き、X線による手荷物検査、免税店経由で搭乗待合室という順序である。

(2) 出国手続き上の留意点

赴任後はJICA事務所が手続きをして派遣期間満了時までの滞在許可を取得する。したがって、その期間内の出入国は複数回でも再入国査証は必要ない。必要なものは、旅券、出国カードのみである。

なお、本邦在留家族を観光などで呼び寄せる場合、家族が復路航空券を所持しており、かつ滞在が1カ月以内であれば、到着時に無条件で1カ月間の査証が発給される。旅券の残有効期間は3カ月以上必要である。

14-3 帰国手続き

(1) 帰国時に必要な事務手続き

旅券、出国カードのみで、免税証明、予防接種証明などは必要ない。

(2) 車の処分

買い手を見つけるには新聞広告、口コミなどの方法がある。個人が買い取る場合はローンが多いため、その手続きなどに時間を要し支払いは遅い。邦人間の売買は本邦で円決済もでき、為替レート上有利である。しかし、売却後の故障などにより気まずいことも起こりうる。そのため、当地の中古車ディーラーか当地の人に売る場合も多い。若干買い取り価格が安くても、支払いが確実なのは自動車会社である。

免税特権をもつ人に売却する場合、売り手は税関へ申告書を提出、買い手は外務省へ免税許可申請書を提出する。免税特権のない人に売却する場合、登録から5年以内の車両については売り手が税金を支払うことになる。

(3) 家財道具の処分

本邦への送付は、輸送業者（P. 38「15-1 家財道具」を参照）に依頼して行う。

当国で処分する方法には、新聞広告、ガレージセール、知人か使用人に譲るなどがある。

(4) 住宅の明け渡し

家主へは、契約で決められた期限までに通知する。任期延長の可能性がある場合はその旨もあわせて通知する。

敷金がある場合は、通常、最終月の家賃に充当される。家具などに大きな損害があった場合は、その修理代や再購入資金に充当される。

(5) 外貨持ち出し規制

外貨口座であれば残金の持ち出し制限はない。本邦口座への送金、外貨への交換も自由である。口座の閉鎖は銀行窓口で閉鎖用の用紙にサインすればよい。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

荷物の内容、量、料金を鑑みて、同時携行、アナカン、船便、郵便小包（航空／船）などを選択することになる。所要時間はアナカンで3～5日、船便は横浜から20日、郵便小包は、航空便は4～5日、船便は3～4週間となる。

船便の場合、Greater Bali Hai Serviceの4隻の貨物船が、およそ2週間おきに神戸、名古屋、横浜を出港、マジュロもしくはタラワかホニアラ経由でフィジーにやってくる。同船の日本での代理店は山九社である。

当地代理店はCarpenters Shipping（電話：312244、FAX：301572）である。

(2) 輸入手続き

BL、船荷証券があれば、JICA事務所から外務省あてに免税輸入の許可申請をし、承認文書とB/LでJICA事務所員が輸入手続きを代行する。港到着後4日目以降は保管料を徴集されるので、早めのB/L入手が必要である。

(3) 輸入荷物の受取り港

スヴァもしくは西部州のラウトカとなる。任地がスヴァかその近郊であれば、スヴァで受け取ることになる。

当地新聞には外国船の出入港の情報が掲載され、JICA事務所からも出入港を目視できる。

(4) 家財道具の購入

赴任後6カ月間は免税購入可能である。手続きはJICA事務所が行う。

15-2 自動車

(1) 一般状況

当地を走行している車の90%以上が日本車であり、最近は中古車の輸入業者も増えている。輸入規制、車種および排気量規制はない。

日本メーカーの各代理店があるため、新車を本邦で発注し、当地で受け取ることが可能である。当地代理店からの購入も可能であるが、車種は限られる。

もちろん、本邦で現在使用中の車や、購入した中古車を輸送するのも方法である。

(2) 輸入手続き

輸入税は、新車、中古車を問わず、輸入時のCIF価格（中古は査定額）に対しての排気量に応じた税率が適用される。5年経過後、税額は削減される。したがって、5年以内に売却する場合は残存期間に対して月割で課税される。

新車、中古車ともに外務省を通じて大蔵省の免税許可をとる必要がある。所定用紙にメーカー名、車体カラー、シャーシー番号、エンジン番号、価格（CIF）を記載する。この免税許可証と船積み書類に基づいて通関を行った後、陸運局で車両登録、強制保険加入などの手続きを行うことになる。

新車の場合は、これらの手続きを購入先のディーラーが代行するため、免税輸入の承認取り付けまでが手続きとなる。

中古車輸入の場合は、船便荷物と同様、免税輸入の申請、承認、通関という流れになる。通関後、車両登録となるが、中古車の場合は本邦陸運局発行の抹消登録証明書オリジナルと同英訳が必要となるので忘れないこと。

手続きに要する期間は免税許可証がいつ入手できるかにもよるが、通常1、2週間程度である。費用は、通関、登録、強制保険をあわせて300フィジードル程度である。

(3) 任国での購入

帰国するJICA専門家や大使館員から買う場合は、車両登録後5年以内の車両であれば免税の申請をする。

新車、中古車をディーラーから購入する場合も同様に免税の申請をし、承認書をディーラーに渡す。車両登録後、納車となる。

1600ccの車両の免税価格は、新車でおよそ2万4000フィジードル、中古車でおよそ1万2000フィジードルである。

(4) 自動車登録

個人で登録する場合は陸運局へ赴き、所定用紙で申告する。車検料27フィジードル、車両税79フィジードル(2000cc)、強制保険料73フィジードル、ナンバープレート料27フィジードルをその場で支払えば終了する。港から陸運局までの移動には仮ナンバー料として6.50フィジードル必要である。新車の場合、検査料は徴収されない。

車検は1年ごとにある。検査料、強制保険料を支払う。

(5) 免許証取得

赴任時に国際免許を携行し、1年間の有効期間中に当地の免許証に切り替える。切替手続きはJICA事務所が外務省に申請、承認後、スヴァ市内の免許事務所で行う。

当地において新規に免許取得も可能である。試験は実技および法規の口頭試問である。ドライビングスクールが各社あるが、すべて路上での教習である。

(6) 保険、税金

車検時に支払う強制保険と任意保険の2種類がある。前者は公共物の補修に、後者は個人の財産としての保険である。任意保険は車の損害と傷害が対象であるので、死亡事故を考慮すれば生命保険も必要である。

通常、任意保険料は年間1200フィジードル程度である。無事故あるいは保険金請求をしなかった場合は毎年15%ずつ減額され55%まで下がる。なお、保険金がおりる対象は査定額が200フィジードル以上の被害である。したがって、損害額が500フィジードルと査定された場合は300フィジードルが支払われることになる。

相手のある事故の場合は警察を呼び、事故証明の発行を受ける。また、保険会社に届け出て保険会社が指定する修理工場で損害額の査定を受ける。

自己責任の場合も保険会社に届け、指定工場での査定を受ける。事故内容によっては保険金の支払いが遅くなることもある。

JICA事務所では、National Insurance Company Ltd. を利用している。

16. 社交

16-1 風俗習慣

国民は、主にフィジー系住民とインド系住民により構成されている。前者はキリスト教、後者はヒンズー教やイスラム教を信仰しており、それぞれの宗教を基盤とした伝統的な風俗習慣を維持している。相手の宗教や習慣に失礼のないよう対応する必要がある。代表的なところではセヴセヴという、タノアと呼ばれる大きな木の器にコショウ科のカヴァの木の根をつぶし、水で溶いた液を回して飲むことにより客を歓迎するセレモニーがあり、これはヤングナともいわれる。国家的儀式から結婚式、村訪問の際に至るまでこの儀式が最初に行われる。

以前は「Sunday Ban」により、日曜日は安息日であるとして商業、スポーツ活動などが禁じられていたが、現在「Sunday Ban」は廃止され、日曜営業の大手スーパーや小売店も現れている。

16-2 パーティーでの留意点

複合人種国家であるため、人種間の問題に触れることは避けるべきである。

16-3 来客時の留意点

特に留意点はない。

16-4 訪問時の留意点

個人宅に招待される場合でも、基本的なマナーがあればよく、特別な留意点はない。

ワイン、ウイスキーあるいは花束など、あまり高価にならない贈り物を持参すると喜ばれる。

16-5 禁止されている言動

基本的に、西欧的な礼儀を心得ていれば問題はないが、村訪問などの際は帽子、サングラスは避けたほうがよい。女性はズボンよりも、つま先まで隠れるスカートを着用するか、または布を腰に巻いたほうがよい。

17. 任国官公庁

各省庁の執務時間は8:00～13:00、14:00～16:30、金曜日は16:00までである。

1999年3月1日現在の各省の所在地などは次のとおりである。

農業・漁業・林業省 (MAFF : Ministry of Agriculture, Fisheries and Forests)

所在地 : FNPF Building Raiwaqa

電 話 : 384233

F A X : 385048

司法長官特別省 (MAGC : Ministry of Attorney General's Chambers)

所在地 : Government Building

電 話 : 211580

F A X : 302404

商業・工業・組合・一般企業省 (MCICPE : Ministry of Commerce, Industry and Cooperatives and Public Enterprises)

所在地 : Naibati house 9 Goodenough Street

電 話 : 305411

F A X : 301741

通信・事業・エネルギー省

(MCWE : Ministry of Communication, Works and Energy)

所在地 : 7th Floor Ganilau House

電 話 : 315133

F A X : 301198

教育・科学省 (MET : Ministry of Education and Technology)

所在地 : Marela House Thurston Street

電 話 : 314477

F A X : 303511

大蔵省 (MF : Ministry of Finance)

所在地 : Ro lalabalavu House

電 話 : 307011

F A X : 300834

フィジー問題・農地賃借法省 (MFAA : Ministry of Fijian Affairs and ALTA)

所在地 : 61 Carnavon Street

電 話 : 304200

F A X : 302585

外務・外貿省 (MFAET : Ministry of Foreign Affairs and External Trade)

所在地 : Government Building

電 話 : 211458

F A X : 301741

保健省 (MH : Ministry of Health)

所在地 : Dinem House Amy Street

電 話 : 306177

F A X : 306163

情報・女性・文化省 (MIWC : Ministry of Information, Women and Culture)

所在地 : Government Building

電 話 : 211700

F A X : 303146

法務・自治省 (MJHA : Ministry of Justice and Home Affairs)

所在地 : Government Building

電 話 : 211401

F A X : 300346

地方自治・環境省 (MLGE : Ministry of Local Government and Environment)

所在地 : Fiji Football Association House Gladstone Street

電 話 : 211310

F A X : 303515

労働・産業関連省 (MLIR : Ministry of Labour and Industrial Relations)

所在地 : 414 Victoria Parade

電 話 : 314999

F A X : 304809

国土・鉱山資源省 (MLMR : Ministry of Lands and Mineral Resources)

所在地 : Government Building

電 話 : 211556

F A X : 302730

国家計画省 (MNP : Ministry of National Planning)

所在地 : Level 8 Ro lalabalavu House

電 話 : 313411

F A X : 304809

地域開発・多民族問題省

(MRDMA : Ministry of Regional Development and Multi-Ethnic Affairs)

所在地 : Regional house 1 Knollys Street

電 話 : 313400

F A X : 303256

運輸・観光省 (MTT : Ministry of Tourism and Transport)

所在地 : Victoria Parade

電 話 : 312788

F A X : 302060

青年・雇用機会・スポーツ省

(MYEOS : Ministry of Youth, Employment Opportunities and Sports)

所在地 : Harm Bing Nam Building Brewster Street off Suva Street

電 話 : 315960

F A X : 305348

18. 在外日本関係機関など

在フィジー日本国大使館

所在地 : 2nd Floor, Dominion House, Thomson St., Suva

電 話 : 302122、304633

F A X : 301452、302984

執 務 : 8:30~13:00、14:00~16:30

JICAフィジー事務所

所在地 : 7th Floor, Dominion House, Thomson St., Suva

電 話 : 302522

F A X : 302452

E-Mail: jica@is.com.fj

執 務 : 8:30~13:00、14:00~16:30

海外漁業協力財団スヴァ事務所 (OFCF)

所在地 : New Town Hall

電 話 : 304044

FAX : 304069

執 務 : 8:30~13:00、14:00~16:30

19. 地方都市

西部州のラウトカ、北部州のランバサ、国際空港の所在するナンディなどがあるが、在留邦人の多くはスヴァ、もしくはナンディに居住している。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任する専門家などのJICA関係者が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、特に生活情報を提供するものです。

専門家などのJICA関係者は、技術協力協定などの国際約束に基づいて派遣されておりますので赴任国で課せられる税金が免除されることがあります。任国情報はこうした関係者を対象として作成されておりますので、あらかじめご了解願います。

..... アジア地域.....

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

.....中近東地域.....

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、アマン)
16. イエメン (サナア)

.....太平洋地域.....

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. バブア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

.....欧州地域.....

1. カザフスタン
2. キルギス
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア
9. チェッコ
10. ルーマニア

.....アフリカ地域.....

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートディボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、アンチラナナ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア
26. トーゴ
27. ザイール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ
32. エリトリア
33. 南アフリカ
34. ジブティ
35. ウガンダ

.....中南米地域.....

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオ・デ・ジャ
ネイロ、ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア
21. ジャマイカ
22. エル・サルヴァドル

「任国情報（フィジー）1999年版」

平成11年12月15日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

